

国内クレジット認証委員会御中

## 審査結果概要書

平成 22 年 3 月 15 日

審査機関名 SGS ジャパン株式会社

### 1. 排出削減事業の概要

排出削減事業名	財団法人キープ協会 清泉寮新館への木質バイオマスボイラー導入事業
排出削減事業者名	財団法人キープ協会
排出削減共同実施事業者名	オリックス株式会社 オリックス環境株式会社
事業実施場所	清泉寮 山梨県北杜市大泉町西井出石堂 8240-1
事業の概要	<p>本事業は財団法人キープ協会の宿泊研修施設である清泉寮の新館建設において、暖房・温泉昇温・給湯用の熱供給システムにおけるボイラー導入に際し、木質バイオマスボイラー（ペレットボイラー）を導入することにより、他の化石燃料等のボイラーを導入する場合に比して CO2 排出を削減するとともに、山梨県産材の有効活用を推進する。</p> <p>具体的には、暖房・温泉昇温・給湯用の熱供給用に、木質バイオマスボイラー（ペレットボイラー）2 台及びバックアップ用 LPG ボイラー 2 台を新設し、排出量削減を行うものである。なお、バックアップ用 LPG ボイラー 2 台は短期的な熱需要の変動に対応するために設置するが、本事業では新設するバイオマスボイラー 2 台の生成熱量を独立して計測することが可能であるため、当該 LPG ボイラーの生成熱量の計測は不要である。</p> <p>燃料のペレットは、山梨県内の間伐材や林地残材など未利用の木材から製造されたものであり、県産材の利用促進に貢献するものである。ペレットの乾燥はペレット製造業者が実施するため、追加的な乾燥などは不要である。</p>
排出削減量の計画	318 tCO2/年 (事業実施期間合計 1,272tCO2)

国内クレジット 認証期間	開始予定日	2009年 4月 1日
	終了予定日	2013年 3月 31日
排出削減方法論	方法論番号 001-A バイオマスを燃料とするボイラーの新設	

## 2. 審査結果

本事業は、排出削減事業の要件に適合している

## 3. 実施した審査手続の概要

審査手続により、以下の排出削減事業の認証の要件の妥当性を確認している。

要件	審査手続
日本国内で実施されること	<p>事業計画が日本国内で実施されていることを、事業サイトを訪問して確認した。</p> <p>排出削減事業実施場所： 山梨県北杜市大泉町西井出石堂 8240-1</p>
追加性を有すること	<p>本事業は、財団法人キープ協会の宿泊研修施設清泉寮の新築に当たって木質バイオマスボイラーを導入することで、他の化石燃料等のボイラーを導入する場合に比してCO<sub>2</sub>の排出削減を図るものである。</p> <p>1) 同施設には青少年を中心とする宿泊研修施設であり、自然環境の豊かな地域で年間3万人～4万人の宿泊が計画されている。環境教育の一貫として活用される機会が多く、環境保全に関する情報を提供する場として適している。</p> <p>2) 国内クレジット制度を活用することで、省エネ、温暖化防止などの取組み状況に関するアピールをより有効にできると考え、今回の木質バイオマスボイラーの導入を行った。木質バイオマスエネルギーが、宿泊施設全館で空気調和及び給湯に使用されていることを表示し、CO<sub>2</sub>排出削減に関する情報を提供している。本制度への参画は宿泊来場者に対して事業の普及及び宣伝効果を有する。</p> <p>3) 投資回収年数計算については根拠となる関連データの収集及び関連証憑と突合することにより正確性を確認し</p>

	<p>ている。本事業の投資回収期間は 12.2 年で投資バリアから追加性が認められる。</p> <p>4) 経済的見地から判断して、本事業が最も魅力的な投資案とはなりえないこと、本事業が実施されない場合には、LPG ボイラーが導入されている予定であったことを質問、関連資料（メンテナンス記録など）の閲覧、及び事業サイト訪問時の関連設備の確認等により確認している。</p>
<p>自主行動計画に参加していない者により行われること</p>	<p>自主行動計画に参加していないことについては、排出削減事業者への質問、関係者への質問などにより確認している。</p>
<p>排出削減方法論に基づいて実施されること</p>	<p>1) 本排出削減事業は、承認済排出削減方法論 001-A に基づき排出削減量を計算しており、また、方法論の適用条件を満たしていることを確認している。</p> <p>適用条件 1 については、設備の新規導入に当たって総必要熱量の 85%をバイオマス利用としており、バイオマスを主たる燃料とするボイラーを新設する事業であることを関係者への質問で確認している。</p> <p>適用条件 2 については、新設されたバイオマスボイラーで生産した温水を自家消費すること、事業サイトの視察、全体レイアウト図の確認、及び関係者への質問等により、生成された温水は自家消費されることを確認している。</p> <p>2) ベースラインの設定について、LPG ボイラーが選択されているが、事業実施場所近辺に都市ガス配管がないこと、バックアップボイラーとして LPG ボイラーが 2 台設置されていること、及び経済合理性を判断基準としている。ベースラインシナリオの適切性について、現地視察、事業者への質問等によって確認している。</p> <p>3) その他、バウンダリの設定、リーケージの特定、排出削減量、モニタリング方法が適切であることについて、それぞれ質問と関連証憑により確認している。</p> <p>特に当該事業で使用する木質ペレットの輸送等に係るリーケージ排出量については、本排出削減事業の排出削減量の 5%に満たないことを、排出削減事業者および燃料供給事業者への質問や、関連証憑等により確認している。</p>

上記の詳細については、別紙「排出削減事業の要件についての確認事項一覧」を参照すること。

#### 4. 特記事項

投資回収年数については、補助金を除いた純投資額をもとに算出している。

以上